



図1-6. 石川県初記録となる6種. 1, ホソセスジムシ; 2, セスジムシ; 3, ホソエンmamシ; 4, ムナビロネスイ; 5, ムクゲネスイ; 6, クズリュウムクゲキスイ.

#### 福富採集.

セスジムシ *Omoglymmius crassiusculus* (Lewis, 1888)  
1♂, 白山市白峰, 29. V. 2019, 渡部採集 (図2).

石川県におけるセスジムシ科の記録は1948年に採集されたトビロセスジムシ *Rhysodes comes* (Lewis, 1888) 1例のみが知られる(石川県, 1998). 本報告は *Yamatosa* 属および *Omoglymmius* 属の石川県初記録であると同時に県下70年ぶりとなるセスジムシ科の記録である. セスジムシは, 中胸・後胸・腹部のみの死骸を採集したものであるが, 雄交尾器の確認により同定した.

#### エンmamシ科 Histeridae

ホソエンmamシ *Niponius impressicollis* Lewis, 1885  
1 ex., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集 (図3).

#### ネスイムシ科 Monotomidae

ムナビロネスイ *Rhizophagus nobilis* Lewis, 1884  
1 ex., 白山市桑島, 29. V. 2019, 渡部採集; 2 exs., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集 (図4).  
ムクゲネスイ *Rhizophagus subvillosus* Reitter, 1884  
2 exs., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集 (図5).

本報告により石川県産 *Rhizophagus* 属の記録は4種となる.

#### ムクゲキスイムシ科 Biphyllidae

クズリュウムクゲキスイ *Biphyllus kuzurii* Sasaji, 1985  
2 exs., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集 (図6).

本報告により石川県産 *Biphyllus* 属の記録は10種となる.

#### 引用文献

- 平野幸彦, 2009. 日本産ヒラタムシ上科図説 第1巻 ヒメキノコムシ科・ネスイムシ科・チビヒラタムシ科. 63 pp. 昆虫文献六本脚.  
平野幸彦, 2010. 日本産ヒラタムシ上科図説 第2巻 ホソヒラタムシ科・キスイモドキ科・ムクゲキスイムシ科. 61 pp. 昆虫文献六本脚.  
石川県, 1998. 石川県の昆虫. 537 pp. 石川県環境安全部自然保護課.  
大原昌宏, 1996. 日本産エンmamシ概説 II - ホソエンmamシ亜科, コブエンmamシ亜科, セスジエンmamシ亜科, アナアキエンmamシ亜科 - 甲虫ニュース, (114): 1-5.  
佐藤正孝, 1985. セスジムシ科 Rhysodidae. pp. 2-4, pl. 1. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 原色日本甲虫図鑑 II. 保育社.

(渡部晃平・福富宏和 920-2113 白山市八幡町戊3番地 石川県ふれあい昆虫館)

#### 【短報】 タケトラカミキリの訪花を観察

タケトラカミキリ *Chlorophorus annularis* (Fabricius, 1787) の日本国内での訪花については, 新里 (2007) および鈴木 (2019) によれば, 「ときに(まれに)花上からも得られる」などとあるが, 植物名などの具体的な情報は記されていない. また, 筆者の観察経験や知人からの伝聞でも, 本種が訪花したという国内の事例を確認していない. 今回, 下記のように訪花した本種を観察しているので報告する.

2♀♀, 神奈川県横浜市都筑区牛久保, 18. VII. 2019; 1♀, 同地, 1. VIII. 2019. 両例ともに日下部

が観察した後に、一部の個体を記録保存のために採集。

モウソウチク *Phyllostachys edulis* の林縁に繁茂したヤブガラシ *Cayratia japonica* の花上で観察した(図1, 2)。花の中央部にある雌蕊にあてがった口器を盛んに動かす採餌行動をとっていた。両日ともに時刻は15:00時過ぎで、天候は曇りであった。12:00時前後の時点では本種は訪花しておらず、倒れて枯れた竹材上を素早く歩く個体を数頭観察している。国内で本種の訪花観察例がほとんど知られていないのは、生息地が人家周辺の竹林など人的影響を強く受けた環境であるため、成虫の発生時期に利用できる訪花植物がないことがその要因の一つではないかと考えられる。一方、台湾では、龍眼(ムクロジ科)や野桐(アカメガシワ類)などが訪花植物とされている(周, 2004)。ちなみに筆者は、台湾とミャンマーで、シイ・カシ類(ブナ科)に訪花した複数個体をそれぞれ観察している。末筆ではあるが、いろいろなアドバイスに加え校閲して頂いた新里達也博士(東京)にお礼と感謝申し上げる。

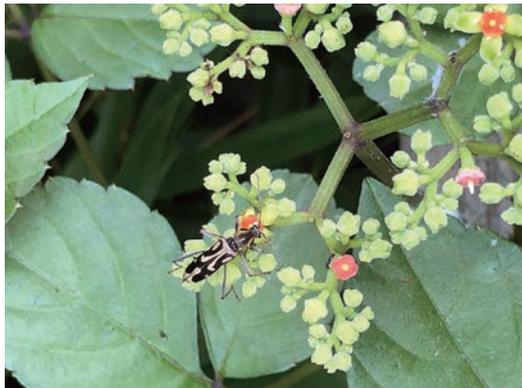


図1. ヤブガラシに訪花したタケトラカミキリ(2019年7月18日)。



図2. 同(2019年8月1日)。

## 引用文献

- 新里達也, 2007. カミキリ亜科(図解検索と種の解説). pp. 252-281, 424-512. 大林延夫・新里達也(編), 日本産カミキリムシ. 818 pp. 東海大学出版会, 秦野.  
鈴木知之, 2009. 日本のカミキリムシハンドブック. 88 pp. 文一総合出版, 東京.  
周 文一, 2004. 台湾天牛図鑑. 408 pp. 猫頭鷹出版社, 台北.

(日下部良康 224-0013 横浜市都筑区すみれが丘21-12)

## 【短報】カリントウトダマシの徳之島からの記録

カリントウトダマシ *Mycetina karin* Sasaji, 1995 は、鹿児島県奄美大島(中央林道)で得られた1個体を基にして記載されたテントウムシダマシ科の一種である(Sasaji, 1995)。また、吉富博之博士からの私信やネット情報によると近年、沖縄島からも本種と考えられる種が発見されるようである。今回、筆者の一人である土川は、従来、記録のなかった奄美群島の徳之島で本種を確認したので、分布記録として報告する。

1 ex., (図1) 鹿児島県徳之島手々, 2. V. 2019, 土川浩司採集, 日下部保管. [徳之島: 新記録]

カミキリムシ類の調査のため伐採地でのビョーティングにより得られた。本個体は、前胸背面の中央部にある黒色紋が奄美大島産(Holotype)よりも発達しているが、その他の特徴は原記載と一致した。

末筆ではあるが、本種の分布記録についてご教示して頂いた吉富博之博士(愛媛大学)と文献や資料の入手でお世話になった保科英人博士(福井大学)、野間健吾氏(日本大学)にお礼申し上げます。

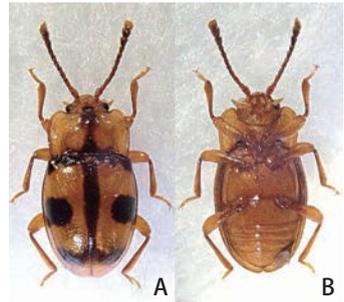


図1. 徳之島産カリントウトダマシ (A: 背面; B: 腹面)。

## 引用文献

- Sasaji, H. 1995. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, VIII. Mem. Fac. Educ., Fukui Univ., Ser. II (Nat. Sci.), 47 (2): 21-30.

(土川浩司 233-0002 横浜市港南区上大岡西 3-5-1-408)

(日下部良康 224-0013 横浜市都筑区すみれが丘21-12)